

# 「悪からお救いください」 マタイ6：9-13

16・6・26

## I 「天にいます（天と地の創造者、偉大な方）」

私たちの父よ（私達を心から愛して下さる、すべての恵みを与えて下さる愛の霊的な親である方）。御名があがめられますように（神が私達を造り、命を与え、救い、罪の赦しと永遠の命を与えられた目的は、私達が心から感謝して、神の御名、神ご自身を崇め賛美し礼拝する事）。

御国が来ますように（まず、私の心の中の王座から私の自我が降りて、主ご自身を心の王座に迎え、私の心と生活に、私の我がままな支配ではなく、神の御国＝御支配が広まりますように。神の時に主が再臨され、新しい神の国が始まりますように）。

みこころが天で行われるように地でも行われますように（まず、私の生活の中で、私自身が、いつも神の御心を祈り求め、神の御心を第一として喜び歩めますように。私のあせる、せっかちな願いでなく、神の最善の御心が行われますように）。

私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください（私も他の人にも、その日の必要を与えて下さい。物質的、霊的なすべての必要は神が与えられているもので、何一つ当然、当たり前ものはない事、すべては神の恵みである事をいつも自覚できますように）。

私たちの負いめをお赦しください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました（まず神の赦しを受け、他の人を赦せますように。日々犯す私の罪の負債もお赦し下さい）：9-12。

## II 「私達を試みに会わせないで、悪からお救いください。[国と力と栄は、とこしえにあなたのものからです。アーメン。]：13。

ここで私達は、自分の弱さを自覚し悪魔の誘惑に陥り易い状況に引かれて行かないようにと祈る。

「だれでも誘惑に会ったとき、神によって誘惑された、とってははいけません。神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれを誘惑なさることもありません。人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます」ヤコブ1：13-15。

主は言われた。「誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい」マタイ26：41。

「悪からお救いください」と続いて祈る。私達は、悪魔の誘惑から救い出していただく必要がある。また、悪は、悪魔、悪の世、外側からだけではなく、私達の心の中にも悪がある。

それ故に、あらゆる悪から救い出していただく必要がある。

私が、1974年6月に主を信じてから今日まで42年間、悪魔の誘惑、世と自分の心の内側の罪の大きな悪から守られたのは、この「主の祈り」に応えられる神の守りのおかげであり、教会の兄弟姉妹、友人、同労者他多くの方々が祈り支えて下さったからである。つくづくそう実感している。危険な悪の誘惑がたくさんあった。これからもある。自分の力で大丈夫と言える人はいない。

そういう人こそ危ない。

「ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい」I コリント10：12。

「私達を」と複数形で祈る時、個人的だけではなく、他の人の為にも、互いの為にも祈り合い支え合う必要がある事を教えられる。

信仰深いパウロの切なる願い→「切にお願いいたします。私のために、私とともに力を尽くして神に祈

ってください。私が…救い出され、…私の奉仕が聖徒たちに受け入れられるものとなりますように」ローマ15：30，31。

なぜ私達は、悪から守られるように祈るべきか？ 単に聖めの為ではない。聖めだけを求めるなら、他の人を上からさばく人となる（自分はその人の様ではないと）。

では、なぜ悪からの守りを祈るのか＝それは、私達と神との素晴らしい関係をいただく恵み、神を深く知り続け、神との妨げのない親しい交わりをいただく事。私達と御父との間に何も割り込ませない為。

最後に追伸がある。「国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです」：13。

私達の必要を祈り、私達がどんなに神に依存しているか、神の恵みで支えられているかを思う時、祈りの終わりも始めの様に、神への賛美が出て来る。

私達の霊性を測る量りは、私達の祈りの中に、心からの賛美、感謝があるかである。

「国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです」。

主の祈りを終えるに当たり、神の国、神の力、神の栄光を神に帰す事は真に相応しい事。

真の神を信じない人間、支配者は、国と力と栄えは、自分のものと勘違いしてしまう。

「ヘロデは…演説を始めた。そこで民衆は、「神の声だ。人間の声ではない」と叫び続けた。するとたちまち、主の使いがヘロデを打った。ヘロデが神に栄光を帰さなかったからである。彼は虫にかまれて息が絶えた」使徒12：21－23。

今も全世界の国々の指導者も、高ぶり、自分達の力を誇り、私利私欲に走り、神に栄光を帰さないなら、神の時にさばかれる。国々の指導者は、もっと天地の造り主の神の前に、へりくだるべきである。実は、天と地を造られた神は、昔も今も、世界中の国々の所有者、支配者である。地上の国も、御国も、真の力と栄え、栄光は、初めから、そして、とこしえに神のものである。神は、すべての造り主、すべての国の支配者、すべての所有者、真の救い主、「万物の支配者」黙示録19：6，15。

「ハレルヤ。救い、栄光、力は、われらの神のもの」19：1。

日毎の糧の与え主、私達を永遠の滅びから、悪魔から、私達の罪から、すべてのものから守り愛して下さる方が、私達の父である。栄光も、とこしえに限りなく御父よ、あなたのものです。この最後の祈りこそ、主イエスが御国の民に教えようとされた究極の目標であったと言っても過言ではない。「アーメン」＝神に向かって語られた祈り、賛美等に対して「同意を示す語。本当に、確かにの意」。私達は、心を込めて、この「主の祈り」に同意し「アーメン」と祈りたい。

これで、「主の祈り」の講解説教を終えるが、今後、ますます深い意味を噛み締めつつ祈り続けたい！